

加賀家文書歴史講座のお知らせ！

「知られざる幕末会津藩北辺防衛の歴史」

「加賀家文書」には、幕末の動乱期に蝦夷地に渡った会津藩関係の資料が残され、当時の様子を知らせてくれます。「加賀家文書」や「標津番屋屏風」と呼ばれる資料から幕末のこの地方の様子を紹介いたします。ぜひ、ご参加ください。

- 日 時 平成25年11月22日（金）
午後7時～8時
- 場 所 別海町郷土資料館
附属施設 加賀家文書館
- 講 師 標津町ポー川史跡自然公園
学芸員 小野 哲也 氏
- 申込等 11月21日（木）までに、電話・
FAX・メールのいずれかで、お
名前と電話番号をお知らせください。
当日参加も受け付けます
- その他 第11回加賀家文書館特別展は、11月28日（木）まで。



「標津番屋屏風」新潟市西蔵寺所蔵

ふるさと講座・自然系第3回目のお知らせ！

「初冬の渡り鳥観察会」

この時期数多く見られる「ガン・カモ類」を中心とした観察会を行います。野付半島にある最後の番屋から徒歩で先端を目指したいと思います。半島先端から見える根室半島から知床半島の風景を見ることが出来ます。ぜひ、ご参加ください。



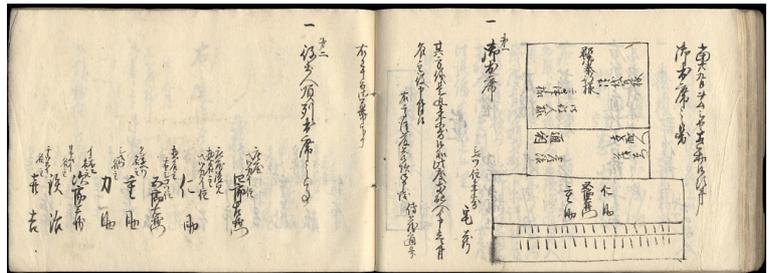
昨年の観察会の様子

- 日 時 平成25年12月1日（日）午前10時～12時
- 場 所 野付半島（集合は野付半島ネイチャーセンター2階）
- 講 師 根室立啓雲中学校 教頭 藤井 薫 氏
- 申込等 11月29日（金）までに、電話・FAX・メールのいずれかでお名前と電話番号をお知らせ
ください。定員15名
- その他 防寒着・長靴を着用ください。図鑑・双眼鏡をお持ちの方は持参ください。当館でも若干
貸出しします。

会津藩による蝦夷地警衛と開拓のはじまり

会津藩は、万延元年(一八六〇)に藩士樋口佐多助、一ノ瀬紀一郎、高津藤蔵らを標津に派遣し、幕府から領地の受取りを済ませました。加賀家文書には引渡書類の控が残されており、会津藩領となった当時の標津場所の様子が伺えます。

万延元年(一八六〇)八月二十九日、標津会所に現地の場所請負人三役、漁場番人やアイヌ達を集め、各種取り決めごとの通達儀式であるラムシャを行ないました。郡御奉行からの申渡の後、アイヌ達へ酒や煙草などが振舞われ、場所内のアイヌが大いに飲み食いし、お祝いをしたようです。これにより、会津藩は本格的警衛と開拓を開始しました。



[ラムシャ相動候次第]加賀家文書館

会津藩による西別川献上鮭の製造

寛政十二年(一八〇〇)幕府小納戸頭取格戸川安論が西別川の塩引鮭を江戸の將軍に献上して以来、根室場所の重要な行事の一つとして幕末まで続けられました。

蝦夷地に赴任した会津藩士も献上鮭製造に立会いました。鮭を詰める箱の蓋や荷札を書き、箱詰の日には、朝風呂に入り身を清め、麻の袴を着て箱詰めの日に行いました。

文久元年(一八六一)の記録から、送られた塩引鮭の本数は以下の通りとなっています。

幕府献上用として

- 一 献上塩鮭 二十本入り 五箱
- 一 同 十本入り 一箱
- 一 御控 十本入り筥包み 十一箱
- 一 外御試 五本入り 一箱

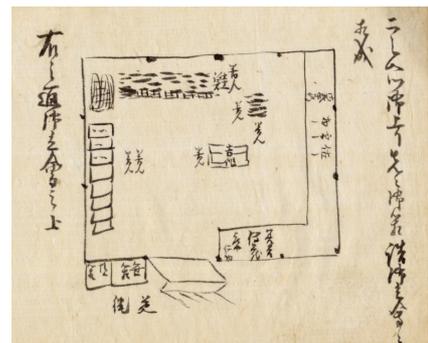
会津家江戸本屋敷御要所用として

- 一 塩鮭 二十本入り 五箱
- 一 同 十本入り 一箱
- 一 別製御配り塩鮭 百本 ベラチ積込

輸送する船には、会津家御印小旗を乗せ、江戸までの航行中の難破に備え、四艘に同量の鮭を積み込み運んでいました。



『鱒形図拾壹品・鮭形図四品』
「ニシベツ鮭之図」
加賀家文書館蔵



『御上鮭仕立蔵見取図』
加賀家文書館蔵

別海町郷土資料館だより No.172

発行日 平成25年11月1日

発行所 別海町郷土資料館

別海町別海宮舞町30番地

電話 0153-75-0802 (FAX 兼)

e-mail kyoudo@betsukai.jp

編集後記

加賀家文書館特別展の最終月になりました。最後の締めくくりとして、加賀家文書歴史講座を行います。幕末会津藩の蝦夷地警衛についてのお話ですので、ぜひ、ご参加ください。すっかり秋模様で冬もまじかにせまってきました。初雪はいつになるのでしょうか？(担当 KI)